

素 顔 拝 見



口腔病理学分野

阿 部 達 也

2020年4月1日付で、口腔病理学分野・助教を拝命いたしました阿部 達也（あべたつや）と申します。素颜拝見の執筆の機会をいただきましたので、自己紹介と近況を述べさせていただきます。

私は、群馬県前橋市の生まれで、大学進学と同時に新潟に参りました。大学卒業後は臨床研修のため、東京に住んでいた時期もありますが、大学院入学時にまた新潟に戻りましたので、かれこれ15年以上新潟で生活してきたこととなります。そろそろ、故郷・群馬県で暮らした時間を、新潟で過ごした期間が上回ってしまいそうですが、まだ新潟の冬の厳しさには気が滅入ってしまいました（歯学部ニュース 128号でも同じ感想を書きました…）。

新潟大学歯学部41期生として歯学部に入學し、卒業後は臨床研修を経て、新潟大学大学院に進學しました。大学院では口腔病理学を専攻し、朔敬教授のもとで口腔扁平上皮癌の癌-非癌界面の研究を行い、現在も関連した研究を継続しています。大学院修了後1年程して、新潟大学医学部臨床病理学分野・味岡洋一教授のもと、特任助教として病理診断・病理解剖・病理研究の研鑽を積む機会をいただき、この間に口腔病理専門医、細胞診専門歯科医の資格を取得できました。お二人の教授からの、病理学・形態学に関する指導は病理

研究・病理診断の礎となっています。現在は、口腔病理学・田沼順一教授のもと、研究・教育・病理診断に取り組む日々です。

趣味は一定しないのですが、ここ数年、趣味と仕事の上での実用性を兼ね、PC周辺機器沼にはまっており、5-6台のキーボードを乗り換えてきました。左右分割のエルゴノミックタイプなど、変わり種も経て、現在はオーソドックスなUS配列のメカニカルキーボードに落ち着きました。長く普遍的に使用されてきたものには意味があると実感しました。キーボード沼の住人の方はぜひ声をおかけください。

さて、私が口腔病理に異動した2020年4月は、まさにCOVID-19（新型コロナウイルス）による猛威が迫り、1回目の緊急事態宣言が国内で発出された時期でした。この原稿を書いている2021年1月現在、第三波と呼べる感染増加を示し、2021年1月初旬で1日の国内新規感染者は6千人を超え、全世界で50万人以上の新規感染が報道される未曾有の状況です。私たちの仕事も大きな転換を迫られ、学会やカンファレンス、学部の通常講義は軒並みオンライン・非対面となりました。オンライン化に最初は戸惑ったものの、活用できれば効率的・効果的なコミュニケーションを実現できる強力なツールと感じました。また、病理標本を用いる検討会や講義・実習がオンラインとの親和性が高かったことは、ポストコロナに向けても新たな可能性を考えさせるものでした。

今後、コロナ禍の早期収束を願いつつ、病理学と新潟大学歯学部の発展に貢献できるよう邁進したいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





歯科矯正学分野

北見公平

2020年4月1日付で歯科矯正学分野の助教を拝命いたしました、北見公平と申します。素顔拝見執筆の機会を頂きましたので、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

出身は千葉県北東部の香取市という茨城県との県境にある田舎町です。中学高校は利根川周辺の田園風景の中を電車に乗り、鹿島アントラーズ本拠地近くの学校に通学していました。新潟大学歯学部40期生として2010年に卒業後、本学研修プログラムBコースで研修医時代を過ごし、その後神奈川県内の大手法人歯科の勤務医として一般歯科診療に2年従事しました。そこで苦楽をともにし、愚痴を言いながら慰め合った同期入社の友人達とは、今でも強い仲間意識でつながっています。一般診療に携わるうちに矯正歯科治療の重要性を改めて感じ、出戻りのような形で2013年に母校の歯科矯正学分野大学院に進学しました。

大学院では、矯正力などの力学的負荷に対する歯根膜の生物学的解析を中心に基礎研究に従事し、院3・4年目にはアメリカ合衆国テキサス大学医学部への1年半の留学の機会を得て、顎顔面領域の骨の発生に関する研究に従事しました。新潟大学でもテキサス大学でも、上司や同僚に恵まれ、楽しく充実した時間が過ごせたことは本当に幸運だったと感じます。留学期間中は目一杯研究に没頭するのと同じくらい、休日もしっかり満喫しました。夏休みには私の妻と友人の3人で、キャンプをしながらナショナルパークをめぐるアメリカ縦断旅行なども行いました。初めころはテントを組み立てるのもおぼつかなく、組み立てている最中に突然の雷雨でテントが潰され、慌てたことも良い思い出です。また、留学したラボはテキサス州のヒューストンにあり、NASAのジョンソン宇宙センターの近くでした。そのため、地

域の日本人コミュニティの中には宇宙飛行士もあり、若田光一さんや、金井宣茂さんなどにお会いすることもありました。金井さんは、私の妻とともに個人的に交流するなどしていましたが、とても世界を代表して宇宙に行くような人とは思えない(失礼)、フランクな人でした。余談ですが、金井さんは日本人で一番若い宇宙飛行士なので、大ヒットした漫画「宇宙兄弟」にも、先輩宇宙飛行士として似顔絵が載っているそうです。

帰国し留学期間中の成果を学位論文として大学院を卒業した現在も、骨や歯根膜に関する基礎研究をつづけながら、矯正歯科臨床では学会認定医の取得に向け、日々の診療に邁進しています。これまで出会いに恵まれ、環境に恵まれ、多くの方々のご支援を頂いて、現在の立場があると考えております。今後も新潟大学歯学部や歯科矯正学分野の発展に貢献できるよう精一杯努めてまいります。皆様どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

※



組織再建口腔外科学分野

齋藤大輔

令和2年4月より組織再建口腔外科学分野の助教を拝命致しました齋藤大輔です。歯学部ニュースは「大学院へいこう」以来となりますが、今回「素顔拝見」の原稿依頼をいただきましたので、この場をお借りして自己紹介をさせていただきますと思います。

出身は新潟県新潟市です。生まれも育ちも新潟ですが、大学の6年間は神奈川県の横須賀市で大学生活を送りました。神奈川歯科大学を卒業後、新潟大学の歯科総合診療部で研修後、組織再建口腔外科学分野へ大学院生として入局させていただきました。大学院時代は自分の研究テーマが『顎変形症と骨代謝』に関する臨床研究であったた

め、前任の齊藤力名誉教授、小林正治教授のもとで臨床を続けながら顎変形症を学び、研究を行いました。大学院の4年間はとても忙しくあっという間でしたが、とても充実していたと思います。

大学院卒業後は当科の関連病院である山形県の鶴岡市立荘内病院の歯科口腔外科へ出向となりました。荘内病院は当科の関連病院のなかでもゴリゴリの口腔外科の病院でしたので、まさに武者修行でした。当初は1年間の予定でしたが、なんだかんだで3年間の武者修行となりました。荘内病院では初めて経験する症例も多く、現在自分が専門としている顎変形症の手術も最初に執刀したのは荘内病院でした。この3年間は本当に多くのことを学ばせてもらい、口腔外科医として成長させてもらいました。臨床漬けの3年を経て、平成30年4月に新潟大学に戻ってきました。これまでの臨床漬けの生活が一変し、臨床に加え、研究と教育が加わりました。現実はなかなか難しいですが、研究・教育・臨床の3本柱をバランス良くこなしたいところです。

と、ここまでは仕事の話をしてきましたが、これだけだと仕事人間と思われ誤解を招く恐れがありますので、ここからは私の趣味の話をしてもらいたいと思います。現在の私の趣味はお酒・ゴルフ・カメラです。お酒は学生時代からずっと飲んでいますが、いまは特にウイスキーにハマっています。ゴルフは大学時代にかじり始め、研修医時代からどっぷりハマりました。そしてカメラですが、これは荘内病院から新潟大学へ戻ってきたときに当科の医局では空前のカメラブームで、医局の先生の勧めでカメラを購入してからハマりました。元々口腔外科では術中写真、症例写真を撮る機会が多く、若手のころは「写真のピントが合っていない！」だの、「明るすぎて白飛びしている！！」などお叱りと指導を頂いたものです。当時は明るさ？F値？シャッタースピード？被写界深度？……携帯電話のカメラくらいしか使ったことがなかった自分にとっては、仕事と割り切り使い方をマニュアル的に覚えただけでしたが、いざ趣味となり興味を持ちだすと自分で調べ、いろいろ試し、今まで何でこんなことが分からなかつ

たのだらうと思います。興味を持つことが如何に重要かということを感じました。

さて、ここまで私の拙い文章にお付き合いくださりありがとうございました。これからも組織再建口腔外科学分野の助教として、日々努力していく所存ですので、みなさま今後ともよろしく願います。



小児歯科・障がい者歯科

花 崎 美 華

令和2年4月1日付で小児歯科・障がい者歯科の助教を拝命しました花崎美華と申します。私は新潟大学出身（42期生）で、学生の頃よりこの歯学部ニュースを読む機会は多々ありましたが、この度素顔拝見の記事依頼をお受けする機会を頂戴し自分の立場も変わったのだなと時の流れを感じております。

自己紹介させていただきます。生まれは富山県富山市なのですが、親の仕事の都合で幼少期は新潟県の上越の糸魚川市、中越の見附市で数年ずつ過ごし、中学・高校は富山市に戻りました。大学から新潟大学に進学し、これで下越もコンプリートだと引っ越ししたのを覚えています。

大学時代は何か運動しなければと一念発起し人生初の運動部であるバドミントン部に入りました。大してうまくもありませんでしたが、日々の運動と試験の過去問入手のためにやっぱり部活に入ってよかったと思いました。よい先輩、後輩、同期に恵まれ楽しく過ごすことができました。デンタルにかこつけて行く旅行は楽しいものですし、こうして大学に残っている現在、この部活でのつながりに助けていただく機会も多くあります。

研修は新潟大学病院でないとマッチングしないのではないかという恐怖と富山に帰りたい気持ち

がせめぎあい、新潟大学Bコースで前半半年は富山県の病院を選択しました。後半はどうしたものかと考えていたところ、「就職すると女性歯科医師というだけで小児をふられるらしい」という噂を耳にして、これは大変と小児歯科学分野にお世話になることにしました。研修終了後は富山に帰るのだらうというのが元来のぼんやりとした人生設計だったのですが、半年実家で過ごしたら思いのほか窮屈ではや一人暮らしでないと耐えられない身体になってしまったことに気づき、ちょうどその頃上司に「やりたいことがないのなら大学院でモラトリアムしたらよい」的な助言をいただき、実行してみることにしました。

もともと小児の扱いには苦手意識もあり、大学院での診療は四苦八苦した思い出が強いです。泣かせてしまうこともしばしばで、保護者の方の冷たい視線にしどろもどろ言い訳したりしていましたが、患者様の成長というのは早いもので、次第に上手に治療を受けられるようになったり、学校の様子をお話ししてくれたりして、外来診療の楽しさを教えてもらいながら成長させていただきました。

大学院修了後は、一度大学を離れてみたいと思っていたところ、鹿児島県の小児歯科専門医院に就職する機会をいただき、3年間勤務しました。雪の代わりに灰が降る環境は新鮮でしたが、開業医ならではのスピード感や簡潔明瞭な患者説明の重要性など歯科医師として学ぶことも多くありました。鳥刺しがスーパーに売っているところも非常によかったです。

この春よりまた母校に勤務する機会を得、つくづく計画性のない人生だと自分でも思います。しかし振り返ってみれば、その場その場で一番面白そうな進路に飛びつく、というのはスタンスとして一貫しているのかなというのが感想です。

本当に自己紹介だけで終わってしまいました。こんな未熟者ではございますが、今後とも何卒よろしく願いいたします。

※



義歯診療科

村上 和 裕

令和2年5月1日付で義歯診療科の助教を拝命致しました、村上和裕と申します。コロナ禍真っ只中の着任であったために、他分野の先生方と交流する機会が無かったので、このような自己紹介の機会をいただき非常にありがたく思います。

私は兵庫県宝塚市出身で、小・中・高、大学、大学院全てが大阪ののどかな田舎町にありました。大学時代はバスケットボール部に所属し、パーティーピーポーな仲間にも囲まれ、良くも悪くもいろんな経験をしました。また、ラーメンが好物で、大学の放課後によく大阪・兵庫・京都のラーメン屋巡りをしておりました。

もともと開業志向でしたが、私が大学に残りたいと思ったきっかけは顎顔面補綴診療でした。出身大学の大阪大学歯学部では、当時准教授をされていた小野高裕先生（現包括歯科補綴学分野教授）の診療グループが、顎顔面領域の腫瘍患者に対する補綴治療を行っていました。6年次の病院実習で「噛めない」どころか「しゃべれない、飲み込めない」といった口腔機能が著しく低下した腫瘍切除患者に対して、どのような治療やリハビリを行えば最善の状態にできるかを議論し実践していく先輩方のカッコイイ背中を見て、一般開業医では絶対にできない、やりがいのある顎顔面補綴診療をしたいと思い、大学に残る決心をしました。大学院では新潟大学や食品会社とコラボして「食品の機械的特性と摂食嚥下様相の関係性」について研究を行い、今後もライフサイクルにおける口腔機能と食と健康について研究していきたいと考えております。

生まれて初めて違う生活圏に移住することにな

りましたが、新潟に移住してまず思ったことは、「ラーメンの味が合わない」でした。新潟県民の方に喧嘩を売る気は全くありませんが、同僚や学生にオススメのラーメン屋を教えてもらい食べに行っても、何度も行きたいと思える味にはまだ出会えておりません。私は週に最低2回は通う天下一品LOVERですが、天下一品が新潟には一軒も無いことに大変驚き（絶望し）ました。もしも平打ち細麺の豚骨醤油ラーメンで美味しい店を知っていましたら、是非教えてください。しかしながら、米や日本酒、魚介類は本当に美味しいし、スーパーではレジのおばちゃんが袋詰めまでしてくれますし（新潟に来て一番感動しました）、最

近エスカレーターに乗ったら無意識のうちに左側に立つようになっていたりしているので（大阪では右側に立つ）、このまま1年くらい経ったら「ここが私のアナザースカイ！」とか叫んでいるかもしれません。他にも書き切れないほどのカルチャーショックを受けていますが、小野高裕教授をはじめ、分野スタッフや病院スタッフの方々のおかげで、非常に充実した新潟ライフを過ごしております。

最後になりましたが、新潟大学に少しでも貢献できるよう努力していく所存ですので今後とも何卒宜しくお願い致します。

